

平成 18 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (連結) 平成 17 年 7 月 22 日



上場会社名 小林製薬株式会社

(コード番号: 4 9 6 7 東・大 1 部)

(URL <http://www.kobayashi.co.jp/>)

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 豊

責任者 常務取締役 グループ統括本社本部長 田中 正昭 TEL : (06) 6222-0084

1 第 1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : 中間連結財務諸表作成基準

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識方法 : 有

との相違の有無

(内容)

当第 1 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、前連結会計年度末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規) 3 社 (除外) 0 社 持分法 (新規) 0 社 (除外) 0 社

公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2 平成 18 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 3 月期第 1 四半期	61,414	14.9	3,998	39.3	3,591	44.3	1,680	0.0
17 年 3 月期第 1 四半期	53,470	1.1	2,870	17.0	2,488	17.9	1,680	2.7
(参考) 17 年 3 月期	215,708		15,698		14,159		6,730	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18 年 3 月期第 1 四半期	40	37		
17 年 3 月期第 1 四半期	39	45		
(参考) 17 年 3 月期	160	64		

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期のわが国経済は、企業収益の改善や底堅い個人消費などに牽引され、緩やかな回復基調で推移しておりますが、原油価格高騰の長期化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対して新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 1 四半期の売上高は 61,414 百万円 (前年同期比 14.9% 増)、営業利益 3,998 百万円 (前年同期比 39.3% 増)、経常利益 3,591 百万円 (前年同期比 44.3% 増) となりました。また、土地の減損損失を 1,437 百万円計上しました結果、第 1 四半期純利益は前年同期と同じ 1,680 百万円となりました。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今春に 7 品目の新製品 (栄養補助食品は除く) を発売し、売上拡大に貢献しました。また、しみをケアするクリーム「ケシミンクリーム」や栄養補助食品などが引き続き順調に推移した結果、売上高は 22,207 百万円と前年同期に比べ 1,589 百万円 (7.7%) の増収となりました。一方、売上伸長に加え、製造原価などのコスト削減を実施したことから、営業利益は 4,051 百万円と前年同期に比べ 1,371 百万円 (51.2%) の増益となりました。

なお、笹岡薬品(株)から独占販売権を取得しました「命の母 A」を 6 月より販売しております。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、4月1日に㈱スズケンより一般用医薬品卸事業を譲り受けたことなどから、売上高は41,007百万円と前年同期に比べ7,511百万円(22.4%)の増収となりました。しかし、統合効果はまだ十分に業績へは反映せず、営業損失は40百万円と前年同期に比べ6百万円(17.6%)の減益となりました。

なお、㈱K S北海道と㈱K S東海の子会社2社が当第1四半期より連結対象となっております。

医療関連事業

当事業におきましては、国内では市場の拡大が見込まれる整形外科領域へ注力しており、売上は順調に推移しております。一方、米国では顧客リスト買収による顧客の囲い込みなどを実施しましたが、当第1四半期も事業展開しているカリフォルニア州の保険制度変更(保険償還削減など)による影響を前期より引き続き受けております。この結果、売上高は3,808百万円と前年同期に比べ4百万円(0.1%)の増収となりましたが、営業損失は42百万円と前年同期に比べ136百万円の減益となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第1四半期	149,996	60,985	40.7	1,465 28
17年3月期第1四半期	132,193	54,950	41.6	1,319 26
(参考)17年3月期	134,629	60,116	44.7	1,443 30

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第1四半期	283	518	888	20,170
17年3月期第1四半期	1,086	672	1,523	14,540
(参考)17年3月期	8,364	3,936	3,369	19,035

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して15,367百万円増加しましたが、株主資本は869百万円の増加に留まったことから、株主資本比率は4.0ポイント減少いたしました。

また増減の主なものに、子会社の新規連結化による影響から流動資産では受取手形及び売掛金が9,397百万円の増加、棚卸資産では4,035百万円増加しております。同様に、流動負債では支払手形及び買掛金が13,280百万円増加しております。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は283百万円となりました。

これは、税金等調整前第1四半期純利益が3,142百万円ありましたが、法人税等の支払額が2,988百万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、獲得した資金は518百万円となりました。

これは、有形固定資産の取得165百万円や無形固定資産の取得347百万円などがありましたが、営業権譲渡による収入が1,065百万円あったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、獲得した資金は888百万円となりました。

これは、配当金の支払い1,373百万円などありましたが、子会社㈱コバショウへの出資2,650百万円を受けたことによるものです。

3 平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（注）金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	126,000	7,200	3,000	
通期	250,000	14,900	7,100	169 52

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期につきましては、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成17年5月17日に公表いたしました中間期および通期の業績予想は修正しておりません。

上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。